

一三三八番

我がやどに 生ふる土針 心ゆも 思はぬ人の
衣に摺らゆな

一三三九番

月草に 衣色どり 摺らめども うつろふ色と
言ふが苦しさを

一三四〇番

紫の 糸をそ我が搓る あしひきの 山橋を
貫かむと思ひて

一三四一番

ま玉つく 越の菅原 我刈らず 人の刈らまく
惜しき菅原